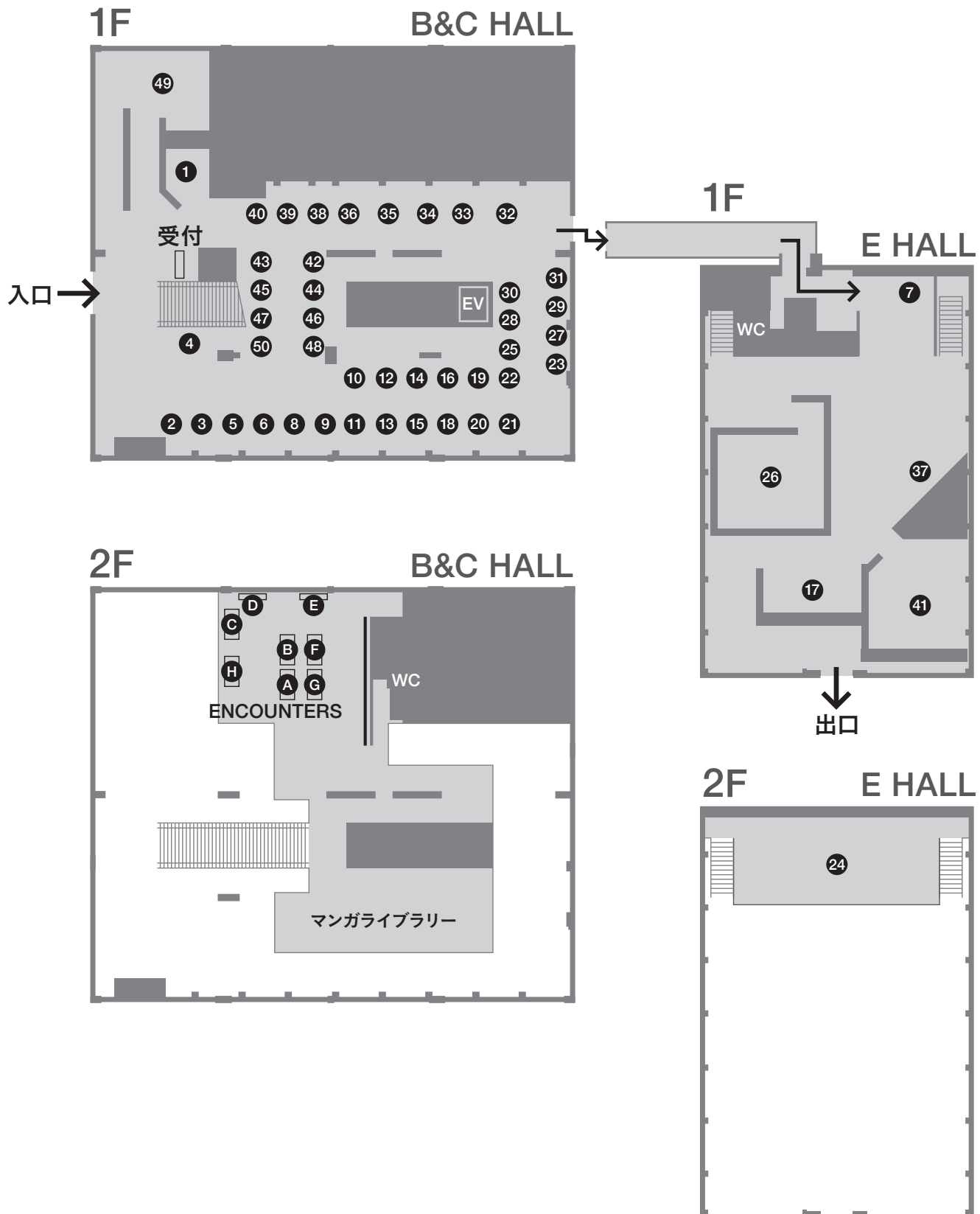


文化庁メディア芸術祭25周年企画展 A Quarter-Century of Japan Media Arts Festival



文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図るため、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供する「文化庁メディア芸術祭」を平成9年度(1997年度)より開催してきました。第1回開催当時の1990年代半ばは、コンピュータやインターネットが一般に認知され始めた時期であり、文化庁メディア芸術祭は最先端のデジタル技術を用いた新しい表現を育む場として誕生しました。それから25年、日常生活で親しまれる作品から、のちに社会に実装される技術を使ったものまで、幅広い作品が受賞しています。本芸術祭における4部門はそれぞれ固有の成り立ちを持ちながらも、各作品が互いに影響を与え合い、受賞作品展には時代を映す表現が集結しました。文化庁メディア芸術祭の25周年の節目に開催する本展では、歴代受賞作品の中から社会やテクノロジーの変化、メディア芸術の表現の多様性を感じられる作品群の展示を行い、文化庁メディア芸術祭の25年の歩みを振り返ります。



展示作品一覧

<p>1</p> <p>第1回デジタルアート(インタラクティブ)部門大賞 『KAGE』関連作品 『KAGE-table』 plaplax</p>	<p>2</p> <p>第2回デジタルアート(インタラクティブ)部門大賞 『ゼルダの伝説 時のオカリナ』 『ゼルダの伝説 時のオカリナ』開発チーム (代表:宮本 茂)</p>	<p>3</p> <p>第3回デジタルアート(インタラクティブ)部門大賞 『エンターテインメントロボット AIBO (ERS-110)』関連作品 『aibo (ERS-1000)』 『aibo』開発チーム</p>	<p>4</p> <p>第3回デジタルアート(インタラクティブ)部門優秀賞 『明和電機 ライブパフォーマンス』 明和電機</p>	<p>5</p> <p>第4回アニメーション部門大賞 『BLOOD THE LAST VAMPIRE』 北久保 弘之</p>
<p>6</p> <p>第4回マンガ部門大賞 『バガボンド』 井上 雄彦/原作:吉川 英治</p>	<p>7</p> <p>第5回デジタルアート(インタラクティブ)部門大賞 『突き出す、流れる』 見玉 幸子+竹野 美奈子 関連作品『モルフオタワー』 見玉 幸子</p>	<p>8</p> <p>第5回アニメーション部門大賞 『千年女優』 今 敏</p>	<p>9</p> <p>第6回アニメーション部門大賞 『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ アッパレ! 戦国大合戦』 原 恵一</p>	<p>10</p> <p>第6回アニメーション部門優秀賞 『頭山』 山村 浩二</p>
<p>11</p> <p>第6回アニメーション部門優秀賞 『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』 神山 健治</p>	<p>12</p> <p>第6回特別賞 『ほしのこえ』 新海 誠</p>	<p>13</p> <p>第7回アニメーション部門大賞 『連句アニメーション「冬の日」』 川本 喜八郎 ほか</p>	<p>14</p> <p>第8回アニメーション部門大賞 『マインド・ゲーム』 湯浅 政明/原作:ロビン 西</p>	<p>15</p> <p>第8回マンガ部門大賞 『夕風の街 桜の国』 こうの 史代</p>
<p>16</p> <p>第9回アニメーション部門大賞 『浮楼』 榎原 遼人</p>	<p>17</p> <p>第10回アート部門大賞 『Imaginary・Numbers 2006』 木本 圭子</p>	<p>18</p> <p>第10回アニメーション部門大賞 『時をかける少女』 細田 守</p>	<p>19</p> <p>第11回アート部門大賞 『nijuman no borei』 Jean-Gabriel PERIOT</p>	<p>20</p> <p>第11回エンターテインメント部門大賞 『Wii Sports』 『Wii Sports』開発チーム(代表:太田 敬三)</p>
<p>21</p> <p>第11回マンガ部門奨励賞 『天顕祭』 白井 弓子</p>	<p>22</p> <p>第12回エンターテインメント部門大賞 『TENORI-ON』 若井 俊雄/『TENORI-ON』開発チーム (代表:西堀 佑)</p>	<p>23</p> <p>第12回アニメーション部門大賞 『つみぎのいえ』 加藤 久仁生</p>	<p>24</p> <p>第13回アート部門優秀賞 『Braun Tube Jazz Band』 和田 永</p>	<p>25</p> <p>第13回エンターテインメント部門大賞 『日々音色』 川村 真司/Hal KIRKLAND/ ナカムラ マギコ/中村 将良</p>
<p>26</p> <p>第14回アート部門優秀賞 『10番目の感傷(点・線・面)』 クワクポリョウタ</p>	<p>27</p> <p>第15回アート部門優秀賞 『particles』 真鍋 大度/石橋 素</p>	<p>28</p> <p>第15回マンガ部門大賞 『あの日からのマンガ』 しりあがり 寿</p>	<p>29</p> <p>第16回アート部門大賞 『Pendulum Choir』 Cod.Act (Michel DÉCOSTERD / André DÉCOSTERD)</p>	<p>30</p> <p>第16回アート部門優秀賞 『欲望のコード』 三上 晴子</p>
<p>31</p> <p>第17回アート部門大賞 『crt mgn』 Carsten NICOLAI</p>	<p>32</p> <p>第18回エンターテインメント部門優秀賞 『handiii』 近藤 玄大/山浦 博志/小西 哲哉</p>	<p>33</p> <p>第18回アート部門優秀賞 『これは映画ではないらしい』 五島 一浩</p>	<p>34</p> <p>第18回マンガ部門大賞 『五色の舟』 近藤 ようこ/原作:津原 泰水</p>	<p>35</p> <p>第19回アート部門優秀賞 『(不)可能な子供、 01:朝子とモリガの場合』 長谷川 愛</p>
<p>36</p> <p>第19回アニメーション部門大賞 『Rhizome』 Boris LABBÉ</p>	<p>37</p> <p>第20回アート部門優秀賞 『Alter』 『Alter』制作チーム (代表:石黒 浩/池上 高志)</p>	<p>38</p> <p>第20回アニメーション部門優秀賞 『映画「聲の形」』 山田 尚子</p>	<p>39</p> <p>第21回エンターテインメント部門大賞 『人喰いの大鷲トリコ』 『人喰いの大鷲トリコ』開発チーム (代表:上田 文人)</p>	<p>40</p> <p>第21回アニメーション部門大賞 『この世界の片隅に』 片瀬 須直</p>
<p>41</p> <p>第22回アート部門優秀賞 『datum』 平川 紀道</p>	<p>42</p> <p>第22回アート部門優秀賞 『discrete figures』 真鍋 大度/石橋 素/MIKIKO/ ELEVENPLAY</p>	<p>43</p> <p>第22回エンターテインメント部門優秀賞 『TikTok』 TikTok Japan</p>	<p>44</p> <p>第22回マンガ部門優秀賞 『百と祀』 紗久楽 さわ</p>	<p>45</p> <p>第23回アート部門ソーシャル・インパクト賞 『SOMEONE』 Lauren Lee McCarthy</p>
<p>46</p> <p>第23回エンターテインメント部門大賞 『Shadows as Athletes』 佐藤 雅彦/佐藤 匡/石川 将也/貝塚 智子</p>	<p>47</p> <p>第23回マンガ部門新人賞 『大人になれば』 伊藤 敦志</p>	<p>48</p> <p>第24回アート部門大賞 『縛られたプロメテウス』 小泉 明郎</p>	<p>49</p> <p>第25回アート部門優秀賞 『四角が行く』 石川 将也/杉原 寛/中路 景暁/ キャンベル・アルジェンシオ/武井 祥平</p>	<p>50</p> <p>第25回アニメーション部門大賞 『The Fourth Wall』 Mahboobeh KALAEI</p>

ENCOUNTERS

令和4年度メディア芸術クリエイター育成支援事業 成果プレゼンテーション

文化庁が主催する「メディア芸術クリエイター育成支援事業」の「国内クリエイター創作支援プログラム」に採択された7組のクリエイターの作品制作の成果及び「キュレーター等海外派遣プログラム」の研修成果を紹介します。

国内クリエイター創作支援プログラム

A 藤倉 麻子+大村 高広『記録の庭』

B 村本 剛毅『Lived Montage』

C ヨフ『Parailusion』

D 小林 颯『つぎはぎの言語』

E 早川 翔人『BOX SEAT』(仮)

F 矢野 ほなみ『その牛、えり』(仮)

G 藤田 純平『BIBLIOMANIA』

キュレーター等海外派遣プログラム

H 鹿又 亘平